

「育雛と農業の両立を目指して」

高石 泰斗 (35 歳)
(四国中央市)

新規就農



1 就農の動機・理由

地元に戻ってきたことをきっかけに父の手伝いで養鶏の道に。農業は代々行っていたが、ここ 10 年ほどは高齢化や人手不足により耕作していなかったものの、就農を機に再開した。

鶏糞堆積場 2 式
鶏糞攪拌機 2 台
除糞設備 2 式

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (平成 25 年)	現在の経営 (令和 5 年)	将来の経営 (令和 8 年)
労働力	男 3 人 (本人、父、叔父) パート 1 人	男 3 人 (本人、父、従弟) パート 1 人	男 3 人 (本人、従弟、新人) パート 1 人
経営耕地 (農業)		里芋 100a 水稲 100a 球根 5a (アネモネ)	里芋 100a 水稲 100a 球根 5a (アネモネ)
経営内容 (養鶏)	法人経営 ・ 育雛 4.5 万羽 ・ 育雛管理 ・ 鶏舎管理	法人経営 ・ 育雛 6 万羽 ・ 育雛管理 ・ 鶏舎管理	法人経営 ・ 育雛 6 万羽 ・ 育雛管理 ・ 鶏舎管理

○主要農業機械

フォークリフト 3 台 (養鶏用)
軽ダンプ 1 台 (養鶏用)
トラクター 3 台
コンバイン 1 台
田植え機 1 台
草刈り機 3 台
軽トラ 2 台
動力噴霧器 3 台
管理機 1 台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県四国中央市
職歴 なし
就農研修歴 なし
就農年月 平成 25 年 9 月

(2) 就農時の思い

農業分野は幼少期から祖母や両親の手伝いで農作業をしていたため不安はなかった。

養鶏分野は初めての事ばかりだったが、父に教えてもらいながら前向きな気持ちで仕事を覚えていった。

○農業用施設

農業用倉庫 1 棟
育雛鶏舎 2 棟
大雛鶏舎 4 棟

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

父から鶏の飼育法や農作業等についての技術を教えてもらっている。

また、青年農業者連絡協議会養鶏部会の会長をしており、定例会や視察研修を通して積極的に会員同士の交流や情報共有を行っている。

(2) 資金の準備

特に準備する必要はなかった。

(3) 農地・住宅の確保

親の農地や近隣の農家から農業機械や農地を借り受けた。住宅は両親と同居している。

(4) その他苦労したこと

農作業は経験があったため、スムーズに作業を手伝うことができたが、養鶏は知識経験がなかったため、鶏の糞処理や匂い等、慣れない環境での作業はしんどかった。

5 農業経営の特徴

鶏の世話と農作業が重なった時が繁忙期である。

鶏のストレスを最小限にするため温度管理に気を配ることが大変である。

また、夏季には高温での出荷を避けるため、深夜に輸送する等、細心の注意を払って育雛をしている。

6 これからの夢

父の経営を継承し、新しいパートも雇い、経営を維持していく。農業部門では、新たな儲かる栽培品目を模索し、経営力向上に努める。

7 成功したキーポイント

経営基盤が十分にあったことと、養鶏・農業に関する知識技術の習得に努力を惜しまなかったこと。

8 就農を目指す方へのアドバイス

就農当初は戸惑うことも多いと思いますが、地域の人と交流・情報交換を積極的に行い、仲間作りを心がけてください。

○ 指導機関からのひとこと

高石さんは、養鶏・農業経営者としてどちらも真剣に取り組み、その両立に励んでいます。

また、青年農業者連絡協議会副会長、同協議会養鶏部会会長として、組織活動に意欲的です。今後も青年農業者組織や地域農業を支えるリーダーとして成長されることを期待しています。

執筆機関

東予地方局地域農業育成室

四国中央農業指導班

電話番号 0896-23-2394



育雛との1枚